

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

JR東・モーター検査で不正 鉄道軽視の施策の中止・撤回を

検査不正があったモーターを積んだ
電車と同じ211系車両



164台のモーターで省令違反

2月14日、JR東日本・郡山総合車両センターで行われているモーター部品の検査で、本来行うべき検査を1年以上行っていないことが明らかになりました。

国交省に届け出していた「探傷検査」を行う装置が故障し、目視のみの検査で済ませていました。昨年1月5日～今年2月6日までに、探傷検査の対象でありながら検査が行われなかったのは280台。そのうち164台分は省令違反にもなっています。

繰り返される不正

会社のプレス発表では、「ただちに破損に繋がらない」「破損しても安全上の重大なリスクはない」などと、あたかも「軽い問題」のように扱われています。

しかし、「行われるべき検査が行われない」まま、1年以上も問題が明らかにならない

事自体が深刻です。

そもそもJR東では昨年9月時点で、輪軸組み立て作業におけるデータ改ざんと不正の隠れいが、本体・グループ会社の両方で明らかになっていました。さらには昨年12月にこの問題で副社長（鉄道事業本部長）への処分も行っています。

しかし、その過程でも今回の検査不正が続いていたこととなります。問題の本質は何一つ解決せず、不正が繰り返されています。

業務融合化・外注化撤回を

原因や経過など、重要なことは明らかにされていません。一方、報道では「担当者に省令違反の認識はなかった」とされています。起こった事態の責任が会社にあることは明らかです。

JR東は鉄道業務をバラバラに外注化して、仕事も労働者も子会社・孫会社に突き落としてきました。それは無責任体制と安全の崩壊をもたらしています。

また、「IT企業」化を掲げて、職名廃止や業務融合化など、鉄道業務と現場労働者をないがしろにする施策を進めています。鉄道軽視、利益優先と安全切り捨ての施策こそ、「根本的な原因」です。職場から職名廃止・融合化、外注化撤回の声をあげよう。